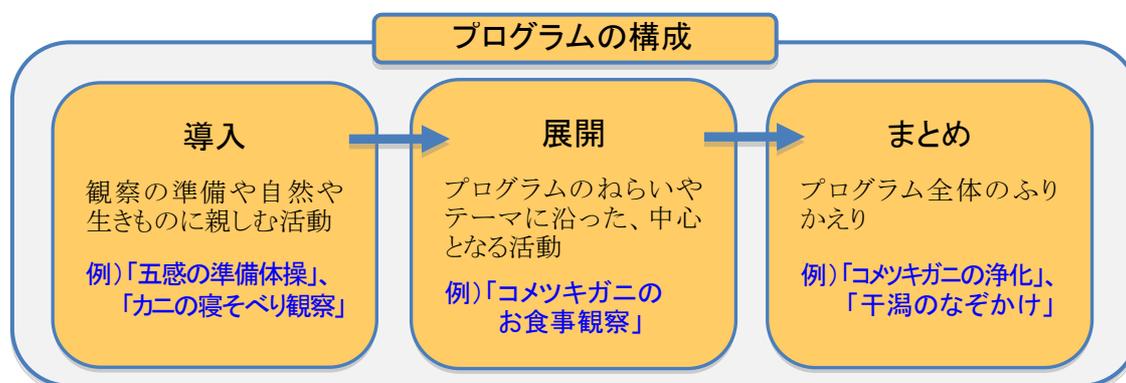


## 4. 学習プログラムの組み立て方

### ・プログラムと活動について

プログラムとは、いくつかの「活動」を組み合わせたもので、「導入」・「展開」・「まとめ」で構成されます。本教材の『たいけんカード』の各カードにまとめられた活動は、ここで言う「活動」に該当します。プログラムを組み立てるときは、まず、プログラムのねらいに沿った、中心となる活動を選びます。次に、その活動に円滑に入ってもらうために、導入となる活動を選びます(例えば、本教材の「五感の準備体操」等)。まとめでは、プログラムのねらいに沿って“ふりかえり”やまとめとなる活動を行います。

このように、プログラムを組み立てるときは、参加者がプログラムに沿って効果的に学習できるよう、ねらいを定めて活動を適切に選択する必要があります。



### ・観察や体験の“ふりかえり”について

活動の後は、学んだことや気づいたことを整理する、“ふりかえり”を必ず行います。学習の一環として行う場合や、活動したことを印象づけたいときは、参加者全員で共有すると効果的です。一人の気づきが皆の気づきへと広がり、分かち合うことができます。「どんなことが印象に残った?」、「どんな発見があったかな?」、「学んだことは?」、「気づいたことは?」などと参加者に投げかけます。

### ・事前、事後の学習と観察について

本教材の『手順書』では、「事前・事後学習」という項目で、活動の事前や事後に学習を深めるためのヒントをまとめています。また、事前・事後の学習に取り組むことが難しいときや、より詳しく学習したいときは、博物館や観察施設を活用しましょう。

事前と事後の学習の組み立て方ですが、体験を活かすという考えによれば、事前の場合は、観察や体験を円滑に進めるための最低限の学習をする(例えば道具の使い方や生きものについての予備知識等)、事後については、活動したことを整理する(記録をまとめる、文献で詳しく調べる等)という方向づけができます。いずれにせよ、観察や体験をどう活かすか、よく考えて計画します。

### ・複数の活動の組み合わせについて

本教材の『手順書』では、「参考」という項目で、関連する活動を紹介し、それらをどのような順序で行ったら良いかヒントをまとめています。活動を単独で行うことも可能ですが、複数を組み合わせてプログラムとして実施したほうが、体験が深まりますし、効率的です。